

米子市危険物保安協会設立趣意書

近時熱科学の目覚ましい発達と生活文化の著しい向上に伴って、石油類を始め各種危険物利用の幅が極めて広くなり、その需要度高めて参りました。

今日大小企業はもとより、我々の台所にいたるまで広く食い込んでいる状況であります。これに比例して、危険物に因る火災も逐年増加の一途を辿って居るのであります。現に先年四日市大協石油の大火災、本年春東京ガス会社大森工場の油火災等は今なお耳新しいことでありますが、これ等の火災を通じて、油類其の他の危険物に因るものが如何に大なる禍を及ぼし、脅威を与えつつあるかをひしひしと感じさせられるのであります。而もこれ等は何れも駐留軍又は大都市の強大な消防力によってはじめて鎮圧し得たのであり、翻って米子市の現状を見ます時、先般防火建築の権威藤田博士が当市の防火診断の際指摘された如く、木造建築、狭隘な道路、不十分な水利等の都市構成上の弱点に加えて氣象上の悪条件が加わり、防火的には赤信号の状態であるにも拘らず普通火災の消防車すら充分でなく、況や危険物火災に対する備えは泡沫剤数罐を保有するに過ぎない状況は、寔に寒心に堪えないものがあります。

その故に何等かの方法を講じてこれを補い、自主的な防火態勢を確立することは焦眉の急務と存するのであります。既に近隣の松江、倉吉両市に於ては数年前に、鳥取市に於ては今春、それぞれ危険物協会が設立せられ着々成果を挙げつつありますけれども、独り当市にのみ未だこれの設立がないのは遺憾至極に存せられるのであります。

殊に平素危険物に関係ある我々としては一日も等閑に附し得ない問題でもありますので、ここに志を同じうする者相集い、堅く結んで速かに本協会を設立して防火思想を昂め、防火態勢を強化して、我々の米子市から危険物に因る火災を根絶して市勢の発展に寄与すると共に、関係者の親睦を図る協会といたしたいと念願するものであります。

どうか各位に於かれましては、この趣意に御賛同の上御協力賜りますようお願い申し上げます。

昭和三十二年十一月七日

発 起 人（いろは順）

稲 田 元 長（稲田本店）	栗 林 力 吉（リツリン映画劇場）
生 田 夏 雄（生田サービス部）	楠 信 雄（山陰金属工業）
堀 田 利 治（堀田石油店）	山 崎 多 久 平（朝日座）
大 原 繁 太 郎（大原運送）	松 井 市 三（米子運輸）
大 倉 寿 賀 丸（米子東映）	松 田 郁 二（松田タンス店）
川 口 敏 雄（鳥取トヨタ）	増 本 幸 一（米子鉄工所）
高 田 朝 吉（米子マツダモータース）	赤 沢 正 道（米子瓦斯）
田 村 純 一（久米桜酒造）	新 達 治（澤タクシー）
竹 村 規 矩 雄（竹村自動車）	安 部 三 代 治（山陰石油）
中 津 尾 勇 夫（鳥取日産自動車）	桜 井 三 郎 右 衛 門（山陰酸素工業）
中 津 尾 進（米子タクシー）	弓 削 鋭 郎（因伯通運）
中 村 辰 雄（日ノ丸自動車）	宮 石 勉（日本通運）
永 東 忠 寿（米子製鋼所）	塩 谷 吉 左 衛 門（米子木材）
永 田 軍 治（永田自動車工業）	広 田 貞 治（広田塗装店）
永 瀬 義 春（永瀬石油）	妹 尾 正 義（鳥取ダイハツ販売）
能 登 隆 夫（つばめタクシー）	

各 位